



# 手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

## 第15回支援活動の記録 2019年7月27日～29日 (岩手県陸前高田市)



### これまでの活動実績 手づくりの器、約1万9000個を提供！

2011年7月	山田町(4000個を提供)
2011年12月	大槌町/釜石市(2700個を提供)
2012年7月	陸前高田市(3000個を販売、全売上を寄付)
2012年12月	気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄付)
2013年6月	東松島市(1100個を販売、全売上を寄付)
2013年12月	石巻市(600個を販売、全売上を寄付)
2014年3月	石巻市(700個を販売、全売上を寄付)
2014年7月	南三陸町(600個を販売、全売上を寄付)
2015年2月	名取市(1500個を提供、全売上を寄付)
2015年9月	七ヶ浜町(700個を提供、全売上を寄付)
2016年3月	亶理町(650個を提供、全売上を寄付)
2017年4月	南相馬市(800個を提供、全売上を寄付)
2018年7月	南相馬市(100個を提供、全売上を寄付)
2018年11月	山田町(500個を提供、全売上を寄付)
2019年7月	陸前高田市(460個を提供、全売上を寄付)

募金総額 : 5,965,092円

被災地への寄附金 : 2,484,160円 (チャリティー陶器市の全売上)



# 陸前高田市について

陸前高田市は現在人口19000人弱の岩手の沿岸部最南に位置する市です。岩手県内でみても陸前高田市は農林水産業などの第一次産業の占める比率が高く、資源に恵まれたところであったことがわかります。

しかし、津波により全世帯の約7割が被災、多くの駅は流失、市役所も最上階の3階まで水に浸かるなど、大きな被害が出たところです。同市出身者には歌手の千昌夫さんや俳優の村上弘明さんなどがいます。

前回の山田町に続き、7年ぶりに復興の様子を自らの目で確認したいというメンバーの想いも強く、以前第3回目の活動でお世話になった未来商店街のメンバーと再びお話をさせていただき、是非また来てほしいということで、開催の運びとなりました。以前の活動報告書にも詳細を記載をしていますが、最新の情報にアップデートした陸前高田市のデータを記載します。



## 1. 被災状況(当市データ 2012/1/31時点)

- 死亡者数 1691人(震災分)  
318人(病死、事故死)
- 行方不明者数 41人

## 2. 被災戸数の内訳(地震被害を除く)

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊
3159戸	97戸	85戸	27戸

## 3. 世帯数、人口の変化(2019/3/31時点)

	世帯数	人口(人)
震災前	8086戸	24,246
現在	7593戸	19,062

## 4. 陸前高田市の被災の特徴

### (1) 地震と津波の状況

14時46分の地震で震度6弱が観測され、15時20分頃には広田湾に津波が到達。各地区に到達した津波の推定高さは、右の通り。入り組んだ入り江の中で津波の高さは非常に高くなり、海から1km以上離れた市指定の避難所も避難した方々のほとんどが行方不明になりました。また、今回支援を行った広田では湾内外の両側からの津波で陸地が分断されました(右下図参照)。

地域別津波浸水高

地域	津波浸水高(m)
後花貝	12.7
小友	16.8
要谷	13.9
館	16.4
市役所付近	15.8
竹駒	11.3

### (2) 火災による被害

隣の気仙沼市のような大きな火災は起こらず、津波による被害にとどまっています。

### (3) 建物・公共施設等の被害

土地被害などの不明分を除いても、漁港、水産加工場、市場などの農林水産施設、商工業施設や観光施設等の産業被害額は約530億円以上、道路・海岸施設、上下水道、学校や社会教育施設、役場庁舎や消防署等の公共施設被害が約110億円以上となっています。

浸水被害図(赤色の部分※国土地理院より)



平野部の生活区域のほとんどが津波による被害を受けていることがわかります。



写真で見る被災状況(当時)

JR竹駒駅(トウリール大船渡線)



今回の陶器市開催場所から少し離れたところにある竹駒駅(無人駅/単線)。残念ながら大船渡までは廃線となっています。(現在、一関～気仙沼間は運転再開)

陸前高田市役所



市役所も15mを超える津波により、災害対策をしていた多くの方々(約1/3の職員)が亡くなりました。現在は7/11の仮庁舎で運営。

高田松原(奇跡の松)



約7万本の松林で日本百景にもなりましたが、津波でこの1本だけとなり、この最後の1本も塩害で枯死しました。復興のシンボルとして保存の為、伐採されました(2012/9/12)。

※赤字:2012年の支援活動場所



広田町(両側から津波で冠水)



津波により道は現在もぼこぼこの状態。ホーセーツ配布会開催のため器を満載して最徐行で通過したが、通行は非常に厳しい・・・



JR大船渡線は線形が竜に似ていることからトウリール大船渡線の名がつけられました。(現在はBRT: Bus Rapid Transit、バス専用路線でのバス運輸となっています)

震災前



高田松原

震災後



Google航空写真

津波により市街地の大部分が無くなっていることがわかります。

## 5. 仮設住宅

・全53団地、2168戸 → 31年度でほぼ全ての仮設住宅が解体、32年度に全てが解体される計画

応急仮設住宅の供与期間は供用開始から7年間であり、8年目以降 に関しては、特定延長とする事が決まっています(H29/5)。

陸前高田でも自宅の再建先は決まっているものの、再建先の土地区画整理の遅れ、工期の遅れなど理由で仮設住宅を退去できない方々がまだ仮設住宅に住んでいます。

これまでに作られた仮設住宅の位置(※岩手県webサイトより)



↓間取り例(2DK：2~3人用)



家電(日本赤十字社からの寄付)  
32型液晶TV、冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、エアコン

◆入居時に配布される生活用品

区分	品名
衛生用品	シャンプー、せっけん、歯磨き粉、バスタオル、洗面器、ヘアブラシなど
台所用品	やかん、両手なべ、フライパン、包丁、まな板、台所洗剤、栓抜き・缶きり、お玉、ざるなど
掃除洗濯	ほうき、ちりとり、洗濯用洗剤、雑きん、物干し竿、ハンガー
救急用品	救急ばんそうこう、爪きり、体温計、綿棒、救急箱
備品	冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、テレビ、電気ポット
その他	時計、座卓、延長コード、裁縫セット、寝具類(敷き布団、掛け布団、シーツ、枕、枕カバー)、什器(茶碗、汁椀、皿、マグカップ、スプーン)、衣類(靴下、下着、Tシャツ、ジャージ)など

↓仮設住宅(広田水産グラウンド 2012年当時)





## 6. 災害公営住宅(陸前高田市HPより)：全11団地、895戸

陸前高田市営住宅は、住宅に困窮している方々が低廉な家賃で入居できるように、陸前高田市が県や国の協力を得て建設した施設で、現在東日本大震災の被災者のために建設された災害公営住宅が市営住宅として組み入れられた公共施設になっています。

また、2019年度より、みなし特定公共賃貸住宅として中堅所得者層に対し、優良な住環境を提供するための住宅とする制度がはじまっています。

市営住宅：住宅に困窮する低額所得者を対象とした住宅(世帯全員の所得総額が月額158,000円以下)

みなし特定公共賃貸住宅：中堅所得者層に対し、優良な住環境を提供するための住宅(世帯全員の所得総額が月額158,000円以上487,000円以下)



市内の建設戸数は、以下の表のとおり(総建設戸数は県営と合わせて895戸)

団地名	構造/階数	戸数	建設/管理
水上	RC/3階	30	市営/市営
長部	RC/3階	13	市営/市営
今泉	RC/3階	61	市営/市営
栃ヶ沢	RC/9階	301	県営/県営
下和野	RC/7階	120	市営/市営
中田	RC/8階	197	県営/市営
脇の沢	RC/3階	60	県営/市営
西下	RC/4階	40	県営/市営
柳沢前	RC/3階	28	県営/市営
大野	RC/3階	31	市営/市営
田端	RC/3階	14	市営/市営

市が震災後に整備した10団地、計594戸の災害公営住宅の入居率は約75%で、約1/4が空室になっています。(2018/12から被災世帯以外の入居を認める緩和措置を実施)





# 陸前高田市での陶器市開催

今回は「ほんまるまるしえ」というイベントに参加させて頂き、チャリティー陶器市を開催いたしました。このイベントは地域の様々なお店と市民団体が力を合わせ、地域市民がともに集い、ふれあいと賑わいのある街づくりを通して地域の活性化を促すことを目的にしています。



毎月第4日曜日開催！  
美味しいもの・面白いもの  
なんでも集まる楽しい市場

Honmaru Marche  
**ほんまるまるしえ** vol.2

特別開催  
チャリティー  
益子陶器市  
額木から作家さんも来場します。  
良いものを格安で購入できるチャンス♪

2019年 7月28日(日)  
10:00~15:00  
陸前高田市まちなか広場・ほんまるの家

今後の予定  
8/25(日)  
9/22(日)

出店申込はこちら  
QRコード

会場  
交流施設 ほんまるの家  
問い合わせ 0192-47-3389(水曜定休・9-18時)

会場地図  
BRT 陸前高田駅  
から徒歩4分

イベントを運営する「陸前高田ほんまる株式会社」は陸前高田市と商工会が半分ずつ出資し、設立したまちづくり会社です。まちなかの魅力創出とその発信を通じ、周辺宅地の利活用を促すことなど目的にしています。また、市街地におけるイベントの開催や事業所のPR、公共施設の指定管理も担っています。あとから分かったことですが、やはりご縁なのでしょう。社長さんは前回の2012年に陸前高田でチャリティー陶器市を開催する前に、周辺の陶器屋さんの調査をしたときに、ご相談した陶器屋さんを運営されている方でした。

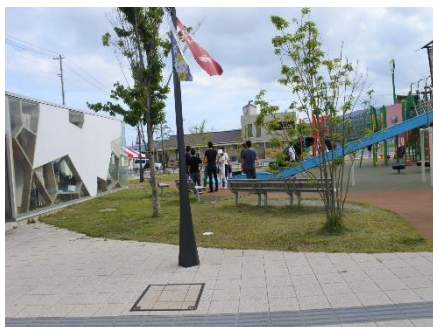
このイベントは2019年の5月に第1回が開催され、今回は第2回目になります。まだまだ始まったばかりで、定着してはいないイベントですが、今後、陸前高田の方々が楽しみに、たくさん来てくれる定番のイベントになったら嬉しい！と想いながらメンバーで準備を進めました。

イベントのポスター

## メンバーの活動風景 7月27日(土)出発



・AM8:30 器を保管していただいている宇都宮のレストランNORAさんに集合。これまで準備した器(約2000個)を梱包したコンテナを車へ積み込みます。行程のブリーフィングを行い、出発しました。(計6台の車、16名で現地入り)



・PM:300 宇都宮から約400km、陸前高田のまちなか広場(イベント開催場所)に到着。海からほど近いところで、10mほどかさ上げた土地に新たな商店街などを立てています。写真右はお世話になった宿泊施設宿：ペンション福田さん。創業40年の民宿でしたが、避難場所としても活用できるようにと、震災後に安全な高台へ移転し再開しています。



# 7月28日(日) 陸前高田市(ほんまるまるしえ)での陶器市開催

地元の手づくり雑貨、観葉植物、木工製品、カレー屋さんなどが集まりました。公園や図書館、ショッピングセンターなどが隣接し、とても雰囲気の良いきれいな広場での開催です。

## 開催の様子①



・AM8:30、早朝の雨も止み、かなりの暑さです。車から器のコンテナを降ろし、テントの調整、テーブルの設置、器のディスプレイをメンバー総動員で行います。



・梱包を解き、アイテムごとに器を並べてゆきます。梱包用の新聞準備、案内板などのレイアウトを急ピッチで行います。海沿いなので風よけのシートも設置しました。



・AM9:30、ディスプレイもほぼ完了！ 丼もの、長皿、丸皿、マグや湯呑みなど、今回も益子焼を中心にたくさんの作家さんの素敵な作品たちが所狭しと並びました。



・メンバーで段取りの最終確認を行い、10時からチャリティー陶器市の開催です。早速地元の方々が来てくれました。みなさん本当にじっくりと選ばれてゆきます。



## 開催の様子②



・前回来て下さった方と7年ぶりの再会もあり、また来てほしいという声も多数いただきました。この日は外出制限も出るような暑い日(最高気温35.2℃ 陸前高田7月の観測史上2位)でしたが、本当に嬉しいあつという間の時間でした。



・7年前に湯呑みや大皿を提供した、鶴亀鮎さんも来てくれました。メンバーみんなで手書きしたお皿を今でもお店で使って下さってました。最後にまちなか広場の方々へご挨拶し、宿へ戻ります。

陸前高田市でのイベントも7年振りとなりますが、当時の仮設商店街から実店舗での再出発をされている方々、当時の方々とも再会もありました。

計画の災害公営住宅は完成しているため、陶器市では揃えの器や前回の山田町と同様に飯椀などのニーズが多く聞かれました。また、茶碗や湯呑を買い求める方々が多く、こちらもこちらのゆとりや、新規に揃えたいという心境の方々が多かったのかもしれない。

今後もこれらの現地の声をもとに、ニーズにこたえてゆけるように準備をしてゆきたいと思います。

ほんまる広場に寄せられた地元の方からの声では「なかなか行くことのできない益子町のイベントを高田で体験できて良かった!」「是非機会があったら益子に行ってみたい!」「普段の高田では見ることのできない商品を見ることができて嬉しい」など嬉しい報告も後日いただきました。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、当初から変わらずチャリティー陶器市を開催しています。陸前高田の方々にも未永く使っていただけたら嬉しいかぎりです。

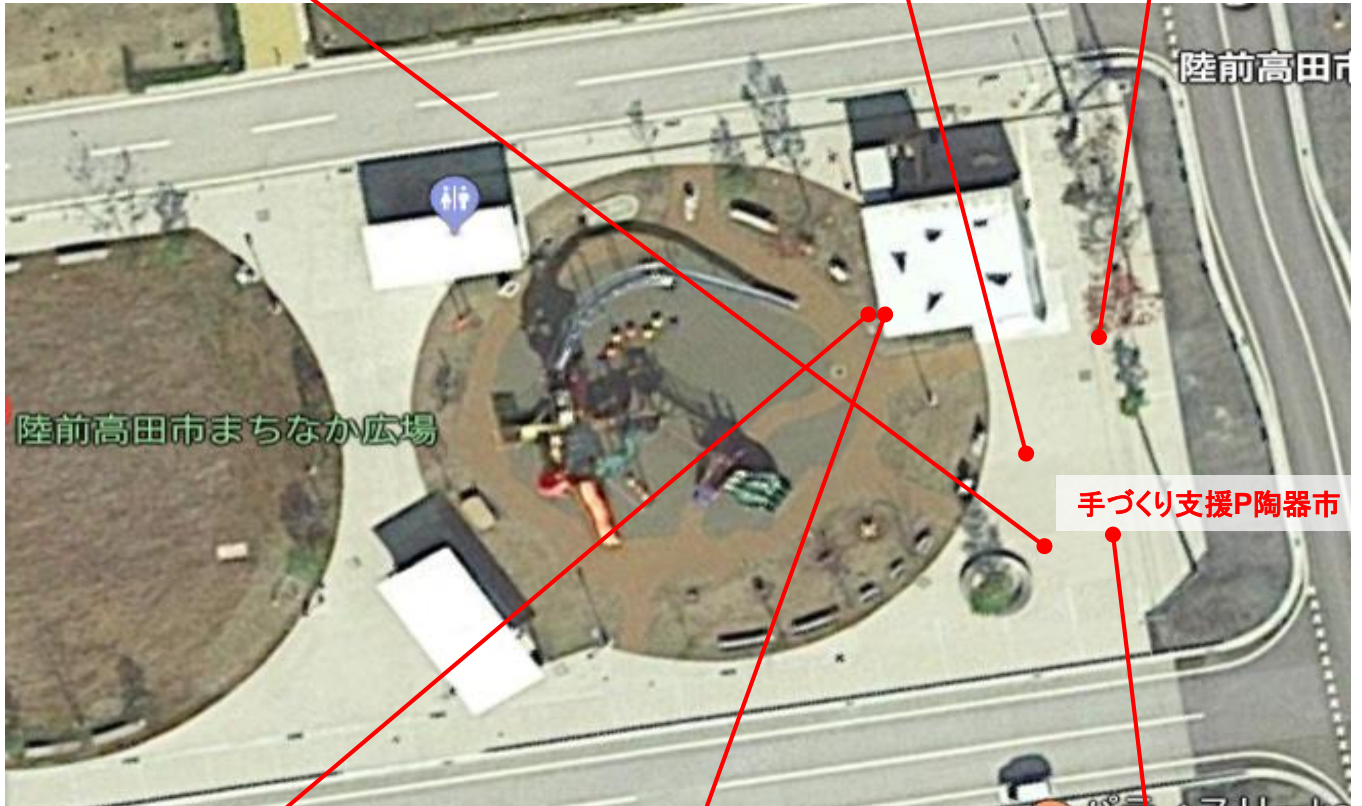


## イベントレイアウト(詳細)

公園わきのスペースを使い、地元飲食店や手づくりアクセサリーなどの小物、雑貨屋さん、かわいい観葉植物、木工のお店などが出店しました。地元の出店者の方々や地元の方々もとても明るく、いろいろお話をしながら震災後から現在の陸前高田の様子を知ることができました。



- 左写真は地元の木材などをつかった木工、まな板のお店、中央は小さな鉢植えやサボテン、右は観葉植物とインテリア小物などのお店。



- 写真左は今回お世話になった陸前高田ほんまる株式会社のベース(ほんまるの家)、中央は手づくり支援プロジェクト発足当時からご支援いただいている方からいただいたハイアンキルトの手づくりポーチで、ほんまるの家でチャリティー販売し、大好評で完売、売上げを全て寄付させていただきました。



## 7月29日(月)現地の様子①

翌日、メンバーで現地の様子を見て回りました。7年前にイベントを開催した場所や、市街地周辺などをまわりました。まだまだ工事は進行形で、写真のように重機がそこかしこで稼働していました。(当時との比較は次頁に)



市街地は10mのかさ上げ工事が終わり、図書館や商店街、スーパーなどが出来ていましたが、海岸付近ではまだまだ工事は終わっておらず、見渡す限り、ダンプや重機が稼働していました。



震災遺構として当時の5階建て市営住宅が残されています(4階まではすべて窓が破損、5階まで床上浸水)。写真右も震災遺構の気仙中学校(屋上まで全て水没)、一本松からほど近い場所にあります。



海岸線には長く大きなコンクリートの壁(約10m)が建設されています。岩手県ではこの防潮堤の数は134箇所、総距離83kmに及びます(岩手では普代村の15.5mが最大高さ)。中央写真は奇跡の一本松。



新しくなった商店街を見ながら、陸前高田に別れを告げ帰路につきました。17:30宇都宮に到着後、コンテナなどを車から降ろし、片付けなどをして全行程終了！



# 写真で見る現在の状況

(※2011/6と現在の比較)

JR竹駒駅(トヨコホール大船渡線)→2013/9/28 再開 BRTとして再開



陸前高田市役所 (2011/5/16より場所を移しプレハブ庁舎で業務を再開、2020年に新庁舎が完成予定)



中心市街地 スーパーや市役所庁舎などがあったが、かさ上げ工事が進み2017/4、震災前に市内で営業していた店舗などが入る大型商業施設「アバッセたかた」がオープン



高田松原(奇跡の松) 幹を分割し防腐処理後、中心部に芯を入れて保存。現在、高田松原津波復興祈念公園を造成中(2020/3完成予定)

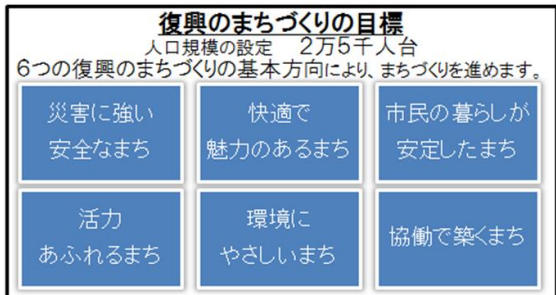




# 陸前高田市の復興計画について(参考)

復興計画イメージ(陸前高田市HPより)

平成26年から始まる「復興展開期」を経て、現在も高台や新たな土地での住宅再建が進んでいます



## 復興のまちづくりの基本方向と重点目標

### 1 災害に強い安全なまち

<p><b>&lt;基本方向&gt;</b> 防潮堤等の海岸保全施設や幹線道路、避難道路の整備を促進するとともに、防災計画の再整備、救護・救護体制の整備など、防災体制の再整備による「津波防災」と「減災」を組み合わせた多重防災型の災害に強い安全なまちづくりを進めます。</p>	<p><b>&lt;重点目標&gt;</b> ○「海岸保全施設」、「まちづくり」、「ソフト対策」を組み合わせた複合対策を図ります。 ○防潮堤、三陸縦貫自動車道、国道45号、国道340号、国道343号、主要地方道大船渡・広田・陸前高田線、一般県道陸前高田停車場線、鉄道などの骨格となる社会資本整備とまちづくりとの運動による総合的に災害に強いまちの再構築を図ります。 ○高田松原地帯については、防潮堤、海岸防災林の整備促進を図るとともに、背後地は国営等による防災メモリアル公園の設置を促進し、海と緑が織りなす松林を再生します。 ○市街地については、複数の南北方向の避難道路と東西方向の避難道路（アップロードの延伸）の整備を促進します。 ○海岸地域の低地部は、東日本大震災による津波の浸水区域や防潮堤等の整備を考慮し、移転促進区域の設定を基本に非居住区域とするともに、住居地域の高台への移転等を計画します。</p>
---	--

### 2 快適で魅力のあるまち

<p><b>&lt;基本方向&gt;</b> 防潮堤等の海岸保全施設や幹線道路、避難道路の整備を促進し、防災性や利便性を考慮した土地利用の創出、災害時のみならず市民生活や経済活動にとっても快適で魅力ある都市空間、都市機能を創出するまちづくりを進めます。</p>	<p><b>&lt;重点目標&gt;</b> ○高田地区を中心とする新しい市街地は、東日本大震災の津波による浸水を免れるよう高さを確保し、低地部の嵩上げ等を行ったうえで、公共・公益施設、商業ゾーン、住宅街を配置、再開発します。 ○今泉地区は、東日本大震災の津波による浸水を免れるよう高さを確保し、低地部の嵩上げ、また西側丘陵部の開発により、歴史的な建物等の復元に配慮しながら歴史を受け継ぐ新しいまちを再生します。 ○下矢作地区、竹駒地区は、地元意向に対応した現位置での住宅再建を促進するとともに、長部地区、米崎地区、小友地区、広田地区は、漁家の生産活動等に配慮しながら、高台移転等を計画します。 ○学校、病院、消防署、文化施設、市役所等の公共施設は、施設の利便性や災害時における避難、機能の保全等を考慮し、高台や新市街地への配置を検討します。 ○公共交通環境については、道の駅、JR駅、バスターミナル、学校、病院、商業施設等への利便性や快適性に配慮し、市域内の新しい交通環境や広域ネットワークの構築を図ります。 ○高台等の住宅開発地域は、文化財、地形や自然景観に配慮するとともに、エコタウンとして開発します。 ○海岸地域の低地部は、防災性や安全性、景観等に配慮し、産業用地、公園、緑地帯等の利用を基本に、公有地化を促進します。</p>
--	---

### 3 市民の暮らしが安定したまち

<p><b>&lt;基本方向&gt;</b> 公営住宅、学校、病院等の医療施設、スポーツ施設、文化施設等の公共施設の再建をはじめ、教育、保健、医療、介護・福祉サービス、市民サービスの回復など、安定した市民の暮らしを再興します。</p>	<p><b>&lt;重点目標&gt;</b> ○高台に集積する公共施設（県立高校、県立病院等）は、緑に囲まれた「健康と教育の森ゾーン」として整備促進を図ります。 ○市民生活や地域に密着した民間医療施設、郵便局、金融機関、商業店舗などが配置されるよう再建を支援します。 ○野球場等のスポーツ公園を整備し、合宿等市内外からの通年利用を促進します。 ○県立野外活動センターは、広田半島地区への移転を検討します。</p>
---	--

### 4 活力あふれるまち

<p><b>&lt;基本方向&gt;</b> 農業や水産業の基幹産業、水産加工や醸造等の地場産業、宿泊施設や道の駅等の観光産業、商業など、雇用の場の確保や産業基盤の早期復興とともに、食関連産業等の新規企業立地や集積を推進します。</p>	<p><b>&lt;重点目標&gt;</b> ○市街地内を通る新たな幹線道路の整備促進を図るとともに、商業ゾーンを形成し、都市内交通や新しい市街地のメインストリートとして魅力や賑わいを創出します。 ○新しい市街地に商・工業ゾーンの形成を図るとともに、醸造業等の地場産業の基盤整備を支援します。 ○市内中小企業の資金繰り支援や投資規模等による事業用施設・設備整備の支援を促進します。 ○長部漁港、脇ノ沢漁港、広田漁港、六ヶ浦漁港は、水産業拠点地域として漁港施設、水産加工団地等の基盤整備や産直施設等の整備を促進します。 ○農地の除塩対策や農業施設、園芸研究室等の早期復旧、農業生産の効率化を目指し農地の集約化等を図るとともに、太陽光などの再生可能エネルギーを活用した新たな施設園芸団地の整備に取り組み、大規模化を促進します。 ○小友浦干拓地域を干潟に再生し、オートキャンプ場モビリアと連携した体験型観光拠点に再生するとともに、干拓堤防背後地は、多目的な利活用を検討します。</p>
--	---

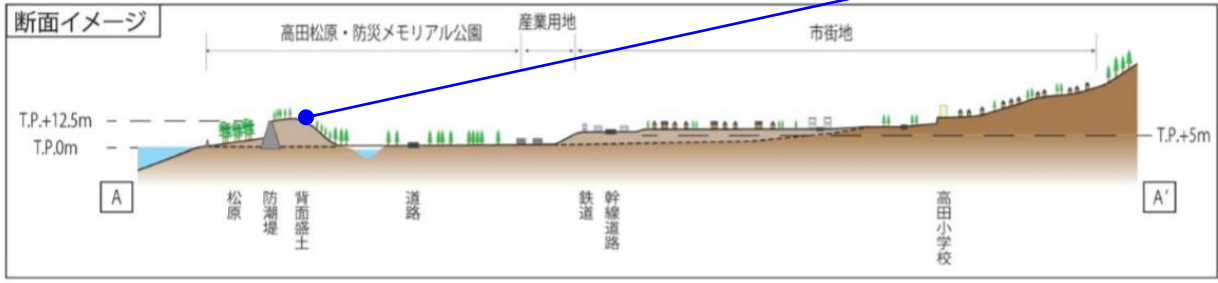
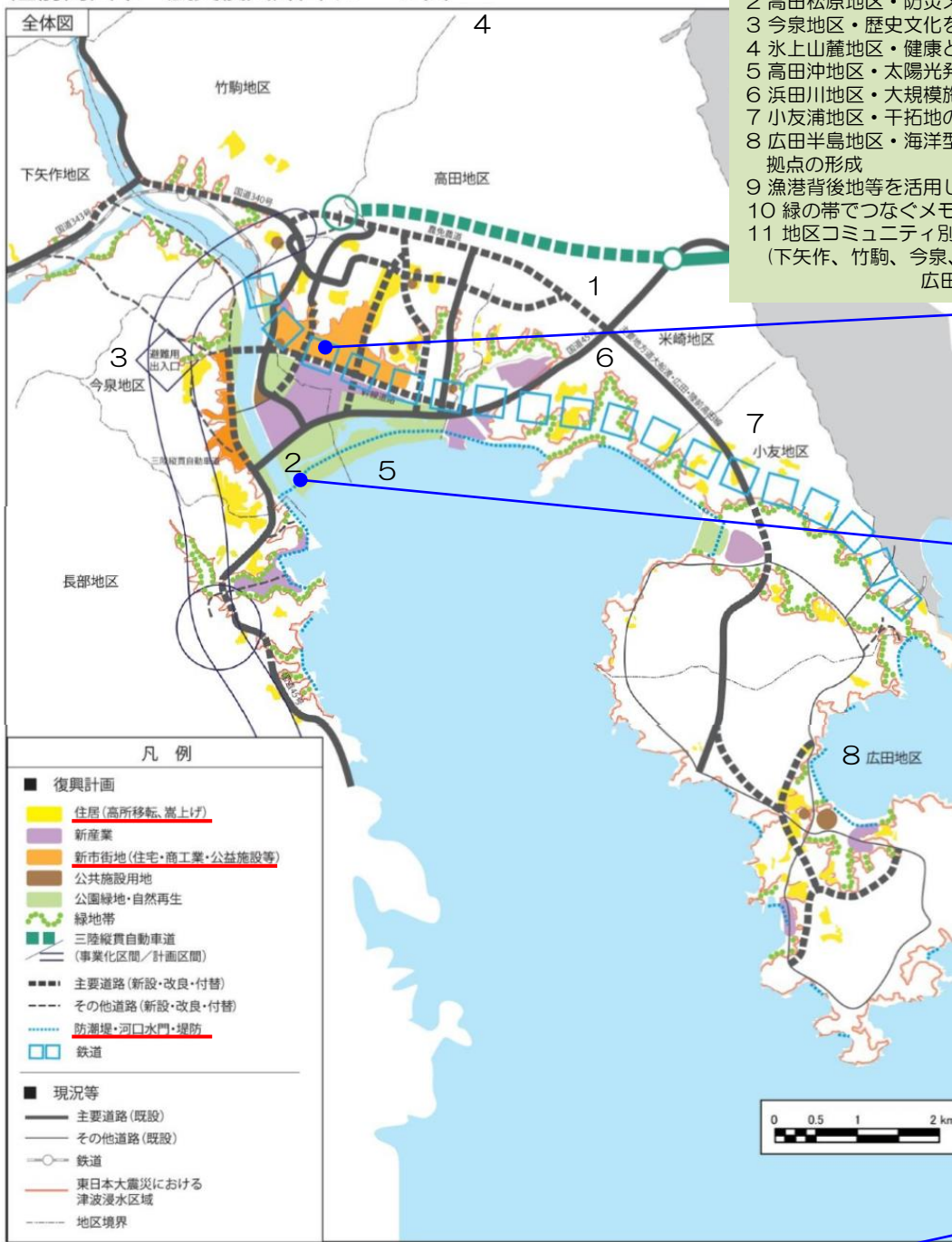
### 5 環境にやさしいまち

<p><b>&lt;基本方向&gt;</b> 太陽光など、大規模災害における活用や地球環境にやさしいエネルギーの活用を推進しながら、環境未来都市の創造に取り組みます。</p>	<p><b>&lt;重点目標&gt;</b> ○エコタウン鳴石団地のような太陽光を利用した環境共生型団地の整備を促進するとともに、再生可能エネルギーの活用による災害時での自立的なエネルギー供給可能体制を構築します。 ○太陽光などの再生可能エネルギーを活用した産業立地の促進や新交通への導入を検討するとともに、公共施設や一般家庭への普及など、環境にやさしいまちづくりの取組みを進めます。</p>
---	--

### 6 協働で築くまち

<p><b>&lt;基本方向&gt;</b> 地域のコミュニティを再生し、市民・事業者・市の役割分担のもと、地域の特性やコミュニティ活動を生かした協働のまちづくりを推進します。</p>	<p><b>&lt;重点目標&gt;</b> ○行政区ごとの高台移転等を基本に、地域コミュニティの再生や地域づくりの促進を図ります。 ○地区コミュニティ施設は、避難所としての役割を果たす防災資材倉庫や健康センター、診療施設等を考慮し、再整備を促進します。 ○地域の祭りを復興するため、「けんか七塔」・「動く七塔」ロード、まつり広場の整備を図ります。</p>
--	--

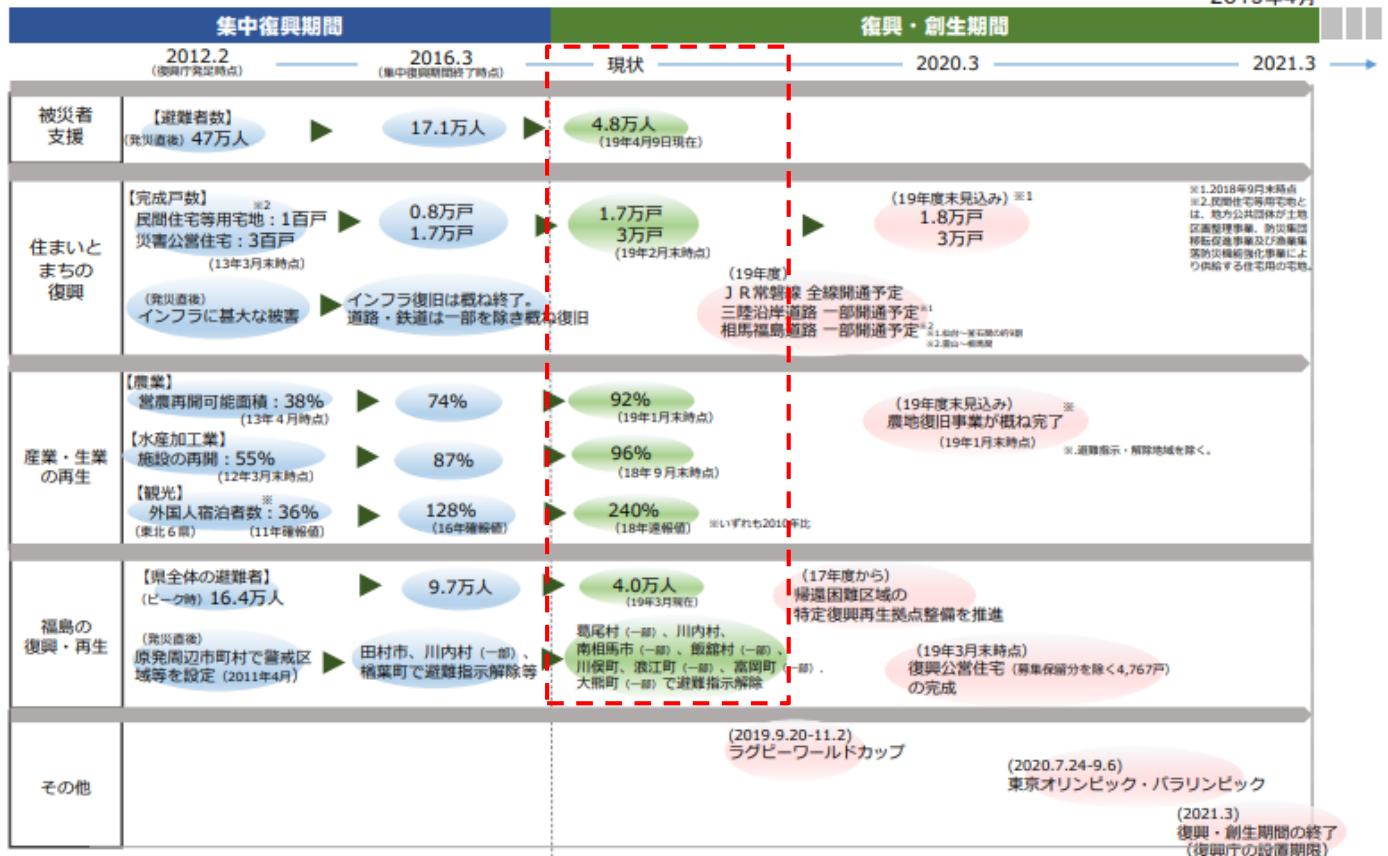
陸前高田市 震災復興計画イメージ図





# 東日本大震災からの復興に向けた道のりと見通し

2019年4月



## 仮設住宅入居者の推移



## 建設される防潮堤数、距離

	岩手県	宮城県	福島県
箇所数	134	382	72
総延長	83 <sup>km</sup>	240 <sup>km</sup>	72 <sup>km</sup>
最大の高さ (設置市町村)	15.5 <sup>m</sup> (下尾川) (普代村)	14.7 <sup>m</sup> (気仙沼市)	8.7 <sup>m</sup> (富岡など 4市町)
事業費	1兆3500億円 (青森、茨城、千葉県の事業を含む)		

※国土交通省などによる

復興庁の公表している数字によると、この4月現在で当初47万人いた避難者は4.8万人に減っています。そのうちの約8割(4万人)は福島の方方で、プレハブ仮設住宅に住まわれている方はいまだに約千人もいます。岩手、宮城は防潮堤の建設や高台への移転を進めており、町の景色はだいぶきれいになってきています。今年度末を目指して高台への移転、公営住宅などの、住まいと町の復興は完了予定となっていますが、高齢者の見守り、心身のケア、生きがいがづくり、といったような「心の復興」が課題となっているようです。

これまで東北3県で支援を行ってきましたが、福島はやはり原発の問題が大きく、常磐道にあるモニタリングポストは昨年と同様、高いところでは3μs/h、高速から見えるプレコンバック(原発からの放射性廃棄物を詰めたもの)は昨年に比べ、かなり増えていました。現地の方々と話をすると、生活はだいぶ元に戻ってきたとおっしゃっていましたが、農作物や海産物は風評被害などもあり、かなり厳しいと・・・。

私たちがイメージだけでなく、現状を正しく知って、行動することが大切だと思います。関東の電力は福島の原発が多くを担ってきました。その重みも忘れずに日々生活をする、仕事や支援活動を通じ、何かその恩返しができるかと思っています。

# 参考2 復興に向けたマイルストーン(復興庁:2019/4)

	集中復興期間												復興・創生期間																								
	2011			2012			2013			2014			2015			2017			2018			2019															
	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月
<b>避難者</b> (避難者数)	仮設住宅整備 仮設住宅関連の環境整備 自立再建、災害公営住宅等での再建																																				
	47.9人			34.9人			30.9人			26.4人			22.5人			17.1人			11.9人			7.1人			5.2人	4.8人											
<b>災害廃棄物(がれき)の撤去、及び処分</b> (がれき処理・処分量)	居住地域内のがれき撤去 仮設住宅等撤去 仮設住宅等撤去の残存物 がれきの処理・処分 津波増植物の処理・処分																																				
	6%			58%						97%			97%			97%			99%			100%															
<b>インフラ</b>	応急復旧・継ぐ復旧 本復旧・復興																																				
<b>海岸対策</b> (本復旧・復興工事の計画箇所67のうち、着工、完了した箇所数の割合) ※2014年3月末まで、本復旧工事の計画箇所67のうち、着工、完了した箇所数の割合				70%			42%			68%			88%			96%			99%																		
<b>復興道路・復興支援道路</b> (計画延長(事業中期間と供用済期間の合計)570kmのうち、着工延長(工事着手した区間延長)と、供用済延長の割合)				63%			37%			83%			98%			100%			98%			99%			99%			100%			402地区						
<b>住宅の自主再建</b> (被災者生活再建支援法(加算部分)の支給状況)				7.1%			9.8%			11.1%			11.9%			12.7%			13.4%			14.1%			14.8%												
<b>まちづくり(防災集団移転、区画整理等)</b> (防災集団移転促進事業での計画決定(大臣指定)地区の割合)、(民間住宅等集約地の供給計画地区数(402地区)、戸数(18,233戸)のうち着工(工事契約)した地区数の割合、及び完成戸数の割合)				1%			100%			84%			98%			99%			99%			99%			100%			17,354戸									
<b>災害公営住宅</b> (災害公営住宅の供給計画戸数(30,167戸)のうち着工(用地確保)した割合、及び完成戸数の割合) ※計画中及び締造者向けの災害公営住宅は推移率には含まない				45%			65%			93%			97%			98%			99%			99%			99%			30,049戸									

2019年4月

	集中復興期間												復興・創生期間																								
	2011			2012			2013			2014			2015			2017			2018			2019															
	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月						
<b>医療施設</b> (入院の受入制限または受入不可(182箇所)のうち回復した病院の割合)	被災した病院の復旧																																				
				90%			90%			93%			95%			95%			97%			98%			98%												
<b>学校施設</b> (被災公立学校施設(2,340校)のうち、災害復旧事業を完了した学校の割合) ※申請済み含む	被災した公立学校施設の復旧																																				
				92%			96%			98%			98%			98%			99%			99%			99%												
<b>農業</b> (津波被災農地(18,800ha)のうち、営農再開が可能となった面積の割合(平成28年度からは、津波被災農地から農地転用された農地等を含んで算定))	農地の損傷箇所の復旧・除塩等を実施																																				
				38%			63%			70%			74%			84%			85%			92%															
<b>地域産業</b> (被災地域の純工業生産指数)	製氷施設や冷凍冷蔵施設の復旧、用地の嵩上げ等により水産加工業の業務再開を支援																																				
	103	70	95	100																																	
<b>事業者支援</b> (仮設店舗・工場・事務所の整備(竣工所数累計))	仮設店舗等の整備・グループ補助会による復旧支援・二重ローン対策等による支援 地域産業や商店街などの本格的な復興																																				
	16	224	400	516			563			577			586			589			590																		
<b>個人債務者等対策</b> (個人破産の債務整理ガイドライン 債務整理の成立件数累計)				10	83	292	563	876	1,099	1,209	1,289	1,344	1,347	1,354	1,359	1,361	1,369																				

※数値がゼロになっている各指標については、集約処理等によって、各年度で数値がゼロの箇所が一部ある。



# 第15回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

この8年間で東北の被災地に約18000個(無償やチャリティー販売)の器を提供し、全売上(計241万円)を寄付してきました。それらは仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき、喜んでいただいています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの協力のもと、無償提供いただく器の割合も増えて、毎回約2000~3000個の器を準備し現地へ持ってゆくことができています。

## 収支報告

- 準備(無償/購入)器数 : 約2000点 (うち提供数: 460個)
- 協力作家数 : 約100名 (HPへの非記載分含む) + ポーセラーツでの協力作家、生徒さん
- 協賛店数 : 44箇所 (2019/7時点)  
※協賛店: 当支援の趣旨に賛同いただき、募金箱やメンバーの募金促進グッズの設置協力をいただいているお店、募金促進グッズ用の革、器などをご提供いただいているお店など

### 収入(募金分)

- 合計(7/30時点) : 182,965円  
募金額内訳  
個人、協賛店(陶器市やイベントでの募金含む)

### 支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- 合計 : 123,438円  
内訳  
報告書作成費/グッズ製作費/募金推進用材料費  
(ボード/募金箱、募金促進用缶詰、郵送費、器着払送料など)

**59,527円(第16回へ繰越)**

### チャリティー陶器市での収入(イベントでの器販売分)

- 合計 : 70,000円

売上は全額(70,000円)を、陸前高田ほんまる株式会社へ寄付し、今後のまちづくりの一助に使っていただくこととしました。

- その他  
(宿泊費@16名 計179,280円+交通費 : 全てメンバー自費)

今回も多くの方々からの支援のもと、第15回目の活動を行うことが出来ました。プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第15回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

また、今回も引き続き県内外の多くの作家さんより無償で器を提供いただき、これまで同等の約2000点を用意することができました。

震災から8年半とだいぶ時間が経っていますが、継続してご協力くださる作家さん、協賛店の方々、県外からもHPやご紹介で、関心を持って下さる方々など多くの方々のお力添えのもと、プロジェクトは継続することができています。重ね重ね心から感謝と御礼申し上げます。

小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しくお願いいたします。

## 第15回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



### • 第15回お届けメンバー

吉田弘道/紘崇	鈴木祥子	木村世傑/理恵子	井上直樹/涼子	田中之人
松谷正博	小向麻子/Edward-san	山脇琢磨	小竹智仁/千晴	
望月崇史	山下侑耶			

### • 協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	Masa
阿久津雅土	梶山友里	坂本光永	成田真澄	増渕葉子
岩見晋介	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	増永典子
池上暁生	加藤博史	佐藤敬	野水美里	松下曜子
伊佐名美子	加藤弓	茂野俊也	長谷川奈美	松下忠生
石嶋哲彦	加藤喜道	清水秀輝	蓮見かおり	松本歳郎
いちかわ清美	川崎萌	荘司武臣	原泰弘	豆腐なる美
伊藤ヨリ	川島郁朗	菅谷太良	樋口早苗	三戸綾乃
大塚温子	上條富子	薄田いと	平泉志津子	溝口丈
大津広子	川又和子	ヅェルI-ブガール	平松龍馬	宮島将實
奥住久雄	岸タカコ	関口洋平	福地綾子	棟方美峰
小野悦子	北川チカ	関口まきこ	福田惣一	もときみちこ
おぬきなつ	木村世傑	関川佳古	福山龍之介	
岡本芳久	国友武志		藤田安雄	吉澤奈保子
岡本有希子	桑川通治	瀧昭典	藤井美香	アソケイ
岡田直恵	倉前幸徳	長豊陶苑	杵かかり	若菜綾子
岡部耕太郎	栗原節夫	豊田雅代	堀水小夜	渡辺キ工
おとがわさとこ	桑原純	陶遊舎谷口	堀水達雄	渡辺六郎
尾関翼郎	後藤義国	戸塚佳奈		渡辺克典
	近藤康弘			その他多数

### • 協力作家(ポーセラーツ)

全国(関西、関東、九州など11か所)の教室/インストラクター、生徒の方々より、多数の作品のご支援をいただきました。

### • 支援してくださった多くの方々

協賛店(次項)の方々、メンバーゆかりの多くの皆さま、職場の皆さま、報道関係の皆さま、本田技研工業株式会社



- 協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

## Company

ジョイコム株式会社

ソフトバンク インターパーク宇都宮

ソフトバンク宇都宮東

ソフトバンク宇都宮鶴田

ソフトバンク鹿沼

ソフトバンク古河

ソフトバンク真岡

ソフトバンクヨークタウン大平

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと

作家館 つかもとギャラリー

つかもと記念館

株式会社 日本ヴォーグ社

## Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE

Cafe R hana

QupuQupu

Café KENZOSUN

益古時計

GALLERY TAS TAS

CAFE CENTRO

イチトニブンノイチ

ミハシカフェ

## Select Shop

ハナムグリ

GOURD+m

うつわ坂

アートショップ向井

相玄窯の店 木洩れ日

仁平古家具店

益子 第二倉庫

釉日

陶のね

## Beauty

PESCA-COCCA

Handmade soap SQUAMISH

salon kyoko

minoriori理容所

UppityCovo

hair Labo natura

Ripple Marks HAIR

seal hair work

## Education

バナナキッズ (英会話教室)

雀宮校、戸祭校

## Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須

NAO テニスクラブ

## Food

pain de masha masha and coffee

ぱんとおかし ノアン

食工房NO-RA

とらっとりあ天野

Taverna Sakurai

銀座園

Bis-t-eria Meli-Melo

TORATTORIA da RIOBA

鮪暁

Conifers

ホイッスル用の革を提供していただいています。

Special thanks!

オーダーメイド靴

銀座てつじ屋

レザークラフト

井戸辰ドットコム

READY OR ORDER

石井裁断所

(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ

株式会社クイーポ

# 第16回手づくり支援プロジェクトについて

第16回は手づくり支援プロジェクトメンバーのベースである宇都宮で栃木岩手県人会とのコラボイベントの開催を計画しています。

これまで手づくり支援プロジェクトでつながった海の幸、山の幸などの岩手の生産者とともに栃木で、岩手のPRとともに復興支援のイベントにしたいと考えています。詳細が決まり次第HPへupしてゆきます。



ボランティアには様々な形がありますが、少しでも関心を持っていただければ嬉しいですし、心が動いてこれから何かしたいと思っていただければ本当に嬉しい限りです。まずは観光でもいいので、出来れば現地に足を運んでご自身の目で確かめていただければと思います。もしくはその地の商品を購入するのも現地に寄り添うことにつながると思います。

自分も東北で育てられ、その恩恵を何かの形で地元に戻したいと思いつつ、また栃木では多くの仲間や友人、支援してくださる多くの皆様に支えられています。誰かのために何かをするということは、かならずどこかでつながり、良い連鎖を生むと信じています。

引き続きみなさまのご支援、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索

<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込

足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334

口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら



作家さんと第15回お届けメンバーの写真



手づくり支援プロジェクト  
<http://handmade-project.jimdo.com/>

手づくり支援プロジェクト  
手づくりの器を直接被災地へ届けよう

